

令和6年度

秋田自動車道 R6 秋田管内塗替塗装成分調査

特 記 仕 様 書

令和6年5月

東日本高速道路株式会社 東北支社
秋田管理事務所

< 目 次 >

第1章 総 則

1－1	調査等概要	1
1－2	適用する共通仕様書	1
1－3	管理技術者の経験及び資格	1
1－4	現場作業責任者の資格	1
1－5	照査技術者の資格	1
1－6	配置技術者	2
1－7	資料の貸与	2
1－8	計画工程表	2
1－9	調査等打合簿の作成及び提出について	3
1－10	保安に関する事項	3
1－11	関連施設その他との関係	4
1－12	ウィークリースタンスの取組み	5

第2章 業務細部に関する事項

2－1	業務の概要	6
2－2	適用すべき諸基準等	6
2－3	調査箇所へのアクセス	6
2－4	現地踏査	6
2－5	塗膜試料採取	7
2－6	塗膜分析試験	7
2－7	報告書作成	7
2－8	打合せ	8
2－9	交通費・日当・宿泊費	8

第3章 補足事項

3－1	設計図書の変更及び追加が予想される内容	9
3－2	遠隔立会	9

第1章 総則

1-1 調査等概要

1-1-1 調査等名 秋田自動車道 R6 秋田管内塗替塗装成分調査

1-1-2 道路名 秋田自動車道 東北中央自動車道

1-1-3 履行箇所 秋田自動車道

自) 岩手県和賀郡西和賀町大渡	(30.3KP)
至) 秋田県秋田市上北手	(106.7KP)
東北中央道(湯沢横手道路)	
自) 秋田県湯沢市沖鶴	(195.8KP)
至) 秋田県横手市十文字町十五野新田	(203.5KP)

1-1-4 主な履行内容

現地踏査	1式
塗膜試料採取	9箇所
塗膜分析試験(PCB)	9検体
塗膜分析試験(鉛及びその無機化合物)	9検体
塗膜分析試験(クロム酸及びクロム塩類)	9検体
塗膜分析試験(コールタール)	9検体
報告書作成	1式

1-2 適用する共通仕様書

契約書第1条に規定する「調査等共通仕様書」(以下「共通仕様書」という。)は、令和5年7月版とする。

1-3 管理技術者の経験及び資格

1-3-1 管理技術者の経験

管理技術者の経験については、当該業務の入札公告(説明書)に示す通りとする。

1-3-2 管理技術者の資格要件

共通仕様書1-7-1「管理技術者の資格要件」については、共通仕様書によらず、当該業務の入札公告(説明書)に示すとおりとする。

1-4 現場作業責任者の資格

共通仕様書1-8-2「現場作業責任者の資格要件」については、共通仕様書によらず、当該業務の入札公告(説明書)に示すとおりとする。

1-5 照査技術者の資格

共通仕様書1-9-2「照査技術者の資格要件」については、共通仕様書によらず、当該業務の入札公告(説明書)に示すとおりとする。

1-6 配置技術者

共通仕様書 1-1-1 の規定によらず、次のとおりとする。

当該業務にかかる入札前の競争参加資格申請書、参加表明書または技術提案書（以下「参加表明書等」という。）を発注者に提出した調査等にあたっては、管理技術者、現場作業責任者または照査技術者は、参加表明書等の「配置予定管理技術者、照査技術者又は現場作業責任者の経験及び能力の資格・実績等、成績等の記載欄」に記載した者を原則として契約期間中配置しなければならない。なお、死亡、傷病、退職、出産、育児等やむを得ない理由により、配置することが困難となった場合は、その理由及び別に配置する技術者の氏名、資格及び業務経験等を記載した書面を付して監督員の承諾を得なければならない。なお、監督員の承諾を得て新たに配置する技術者は、原則として下記の要件を満足する者でなければならない。

（１）当該業務の入札公告（説明書）に示す「管理技術者、現場作業責任者、または照査技術者に求めた資格及び業務経験」と同等以上の資格及び業務経験を有する者。

1-7 資料の貸与

共通仕様書 1-1-5-1 「資料の貸与」に基づく貸与資料は、下表のとおりとする。

なお、貸与予定日までに成果品を貸与できない場合の取扱いが監督員と受注者との協議の上決定するものとする。

貸与資料	貸与予定日	備考
光通信ケーブル管理図	契約締結後	電子データ
力石橋 完成図	契約締結後	電子データ
岩瀬橋 完成図	契約締結後	電子データ
土渕橋 完成図	契約締結後	電子データ
中山橋（上り線） 完成図	契約締結後	電子データ
棚平川橋（上り線） 完成図	契約締結後	電子データ
淀川橋（上り線） 完成図	契約締結後	電子データ
平尾鳥川橋（上り線） 完成図	契約締結後	電子データ
平尾鳥川橋（下り線） 完成図	契約締結後	電子データ
白子川橋（上り線） 完成図	契約締結後	電子データ
旧塗膜の有害物質含有量調査指針（案）	契約締結後	電子データ

1-8 計画工程表

1-8-1 計画工程表の記載事項

共通仕様書 1-1-4-1 「作業計画書の提出」（２）に示す作業計画書中の計画工程表の作成にあたっては、下記の項目ごとに作業完了時期を明示し提出するものとする。ただし、記載する項目は監督員と受注者との協議の上変更することができるものとする。

設計種別	対象構造物	備考
調査準備		
現地踏査		
塗膜試料採取	力石橋	
	岩瀬橋	
	土渕橋	
	中山橋（上り線）	
	栩平川橋（上り線）	
	淀川橋（上り線）	
	平尾鳥川橋（上り線）	
	平尾鳥川橋（下り線）	
	白子川橋（上り線）	
塗膜分析試験	力石橋	
	岩瀬橋	
	土渕橋	
	中山橋（上り線）	
	栩平川橋（上り線）	
	淀川橋（上り線）	
	平尾鳥川橋（上り線）	
	平尾鳥川橋（下り線）	
	白子川橋（上り線）	
報告書作成		
打合せ		

1－8－2 計画工程表に基づく作業状況の報告

受注者は共通仕様書 1－2 2 「打合せ」に規定する打合せの実施時に、作業の実施状況を計画工程表に記載した上で監督員に報告をするとともに、共通仕様書様式第 1－4 号「調査等打合簿」に添付するものとする。

なお、受注者は前項で規定した完了時期が著しく変更となる場合は、共通仕様書 1－1 4－3 「変更作業計画書」に基づき変更計画工程表を監督員に提出するものとする。また、その結果調査等内容の変更が生じる場合の取扱いを受注者と監督員とで協議の上決定するものとする。

1－9 調査等打合簿の作成及び提出について

受注者による共通仕様書 1－2 2 「打合せ」に規定する調査等打合簿の監督員への提出は、打合せ後 7 日以内（休日等を除く）に監督員に提出するものとする。

また、監督員は受注者より提出のあった調査等打合簿を受領後 7 日以内（休日等除く）に受注者へ返送するものとする。

1－10 保安に関する事項

1－10－1 調査用車両の区別

受注者は、調査に使用する車両と一般車両の区別をするため、以下に示す調査用車両の標示と同等以上の標示板を設置するものとする。なお、標示内容の変更を監督員が指示した場合、受注

者はその指示に従うものとする。

調査用車両標示板参考図

秋田自動車道 R6秋田管内塗替塗装成分調査 調 査 用 車 両 受注者名 (□□)
--

材質：耐水合板、強化プラスチック、
布製又はラミネート加工した印刷物等
寸法：取付位置、車両の安全性を損なわず、
かつ識別可能な寸法
色彩：下地黄色、文字黒色
字体：丸ゴシック体（受注者名の文字の大きさは、
他の文字より大きめにする）
□□：受注者車両の通し番号

1-10-2 飛散防止対策

受注者は、調査箇所に変差道路がある場合には、材料等の飛散・落下による通行車両及び通行人の事故等を未然に防止する措置を講じなければならない。

1-10-3 保安に関する費用

本特記仕様書1-7「保安に関する事項」に要する費用は諸経費に含むものとし、別途支払は行わないものとする。

1-11 関連施設その他との関係

共通仕様書1-16「関係官公署及び関係会社への手続き」に示す本調査等業務に係る主な施設及び管理者は、下表のとおりとする。

(1) 道路関係

位 置	道路名	管理者名	摘要
中山橋（上り線） A1橋台～A2橋台	国道105号	秋田県 仙北地域振興局	交差
平尾鳥川橋（上下線） P3橋脚～P4橋脚	出羽丘陵広域農道 （出羽グリーンロード）	秋田市	交差

(2) 河川・水路関係

位 置	河川	管理者名	摘要
力石橋 A1橋台～A2橋台	一級河川 横手川 雄物川水系	秋田県 平鹿地域振興局	交差
岩瀬橋 A1橋台～A2橋台	一級河川 横手川 雄物川水系	秋田県 平鹿地域振興局	交差
土渕橋 A1橋台～A2橋台	一級河川 横手川 雄物川水系	秋田県 平鹿地域振興局	交差
棚平川橋（上り線） P1橋脚～P2橋脚	一級河川 棚平川 雄物川水系	秋田県 仙北地域振興局	交差
淀川橋（上り線） A1橋台～P2橋脚	一級河川 淀川 雄物川水系	秋田県 仙北地域振興局	交差
平尾鳥川橋（上下線） P1橋脚～P2橋脚	一級河川 平尾鳥川 雄物川水系	秋田県 秋田地域振興局	交差

白子川橋（上り線） A 1 橋台～A 2 橋台	一級河川 白子川 雄物川水系	秋田県 雄勝地域振興局	交差
----------------------------	-------------------	-------------	----

1-12 ウィークリースタンスの取組み

ウィークリースタンスの取組みとは、受注者間における仕事の進め方として、一週間における受発注者間相互のルールや約束事、スタンスを目標として定め、計画的に業務を履行することにより、業務環境等を改善し、より一層魅力ある仕事、職場の創造に努めることを目的とした取組みであり、本業務において積極的に取組むこととする。

取組内容は下記事項を標準として、契約締結後の打合せにおいて監督員と受注者とで協議の上実施する取組み事項を定め、調査等打合簿を作成し相互に確認するものとする。

あらかじめ定めた取組み事項を実施できない状況が生じた場合の取扱いについては、その都度監督員と受注者と協議の上定めるものとする。

【取組み事項（例）】

- ① 月曜日を依頼の期限日としない
- ② 水曜日は定時の帰宅に心掛ける
- ③ 土・日曜日に休暇が取れるように、金曜日には依頼しない
- ④ 昼休みや午後 5 時以降からの打合せをしない
- ⑤ 定時間際、定時後の依頼、打合せをしない
- ⑥ 金曜日でも定時の帰宅に心掛ける

第2章 業務細部に関する事項

2-1 業務の概要

本業務は、秋田自動車道（湯田 I C～秋田南 I C間）及び東北中央自動車道（湯沢 I C～十文字 I C間）において、鋼橋の塗膜試料の採取及び分析を行い、塗膜に含有する物質を把握することを目的に実施するものである。

2-2 適用すべき諸基準等

本業務の実施にあたっては、本特記仕様書によるほか、以下の諸基準等に従って実施するものとする。

名 称	出 典	発行年月
設計要領 第二集 橋梁保全編	東日本高速道路㈱	令和2年7月
構造物施工管理要領	東日本高速道路㈱	令和2年7月
旧塗膜の有害物質含有量調査指針（案）	東日本高速道路㈱	令和4年2月
低濃度 PCB 含有廃棄物に関する測定方法（第5版）	環境省環境再生・資源循環局	令和2年10月
ポリ塩化ビフェニル含有塗膜調査実施要領（第3版）	環境省環境再生・資源循環局	令和3年5月
ポリ塩化ビフェニルを含有する可能性のある塗膜のサンプリング方法について（通知）	環境省環境再生・資源循環局	令和元年10月
ポリ塩化ビフェニル汚染物等の該当性判断基準について（通知）	環境省環境再生・資源循環局	令和元年10月

2-3 調査箇所へのアクセス

調査箇所へのアクセスについては、一般道からを基本とし、これにより難しい場合は監督員と協議するものとする。

2-4 現地踏査

受注者は、契約締結後速やかに現地を踏査し、塗膜試料採取を行うために必要な現地状況の把握、及び塗膜試料採取の選定箇所と塗膜記録表を撮影記録し、本業務に必要な情報を収集するものとする。

現地踏査の結果、現地状況による塗膜試料採取の実施が困難な状況にある場合には、速やかに監督員に報告し、協議するものとする。なお、現地踏査の検測数量は、1式とする。

2-4-1 塗膜試料採取の選定箇所

- （1）塗膜試料の採取箇所については、塗膜の劣化等が比較的少なく、かつ直射日光や水掛かりの影響を受けにくい場所を選定するものとする。その際、現状の塗膜厚が周辺よりも薄くなっている部位からの試料採取は避けるものとし、塗膜状況が良好な箇所から試料採取を行うものとする。
- （2）試料採取の詳細な位置については、監督員と協議するものとする。
- （3）試料採取は橋梁検査路から行うことを基本とし、これにより難しい場合は監督員と協議するものとする。

2-5 塗膜試料採取

塗膜試料採取とは、調査対象橋梁（別紙-1）の塗膜分析試験に必要な試料を採取することをいう。なお、作業の際は技術者が必ず立会うものとする。

2-5-1 試料の採取

試料の採取については、採取前には布等で塗膜表面の汚れを除去し、試料に不純物が混入しないよう採取しなければならない。なお、試料採取は、調査対象橋梁（別紙-1）毎に1箇所とする。

（1）採取塗膜層は、上塗から下塗までのすべての塗膜について適切に分析できる量を採取するものとする。

（2）採取は、スクレパー、ヘラ、ケレン棒等の工具を用いて適切に行うものとする。また、剥離剤を使用することが望ましいと判断される場合には、必要に応じて使用できるものとするが、事前に監督員に報告するものとする。なお、現場での採取作業の際には、周辺環境を汚染することがないよう、細心の注意を払うとともに、必要な養生を行うものとする。

（3）採取量は、1試料あたり100g程度（4検体分）採取するものとする。

2-5-2 塗膜剥離箇所の復旧

塗膜剥離箇所の復旧については、試料採取した箇所の素地を清掃した後、エポキシ樹脂塗料を用いて塗装を行うものとする。

2-6 塗膜分析試験

塗膜分析試験とは、塗膜試料採取で得られた試料から検体必要量を秤量し、下表の有害成分についての含有量を把握するため、分析試験を行うことをいう。

分析項目	判定基準	分析試験方法（検定方法）
PCB	0.5 mg/kg超	低濃度 PCB 含有廃棄物に関する測定方法（第5版）準用 環境省環境再生・資源循環局 令和2年10月
鉛及びその無機化合物	重量0.1%以上	JIS K 5674：鉛・クロムフリーさび止めペイント 付属書A－塗膜中の鉛の定量
クロム酸及びクロム塩類	重量0.1%以上	JIS K 5674：鉛・クロムフリーさび止めペイント 付属書B－塗膜中のクロムの定量
コールタール	重量0.1%以上	コールタール成分（ベンゾ(a)ピレン濃度）からの換算法 防錆管理 Vol.63 （一社）日本防錆技術協会 2019.04

2-6-1 塗膜試料の処分

塗膜試料等の処分に要する費用については、監督員と受注者との協議の上決定するものとする。

2-7 報告書作成

報告書については、以下の内容を取りまとめるものとする。

- ① 現地踏査（踏査状況、塗装記録表の写真）
- ② 塗膜試料採取の状況（作業着手前・作業中・作業完了・復旧の各段階の写真）
- ③ 塗膜分析試験の結果
- ④ その他監督員の指示するもの

なお、報告書の表紙は、黒色、金文字製本とし、提出部数は1部とする。

2-8 打合せ

- (1) 本業務における打合せの回数は業務内容確認検査を含め、3回とする。打合せの検測数量は1式とし、監督員が打合せ回数の追加を指示した場合や業務の追加、変更に伴い打合せを追加する必要がある場合の取扱いには監督員と受注者との協議の上決定するものとする。

なお、当初打合せに要する費用は現地踏査に含むものとする。

- (2) 打合せ場所は、東日本高速道路株式会社 秋田管理事務所で行うものとする。

ただし、打合せ場所の変更を監督員が指示した場合は、受注者はこれに従わなければならない。

2-9 交通費・日当・宿泊費

交通費・日当・宿泊費には、打合せ及び現地踏査、塗膜試料採取に必要な交通費・日当・宿泊費を含むものとし、調査箇所数が増減した場合においても、交通費・日当・宿泊費の費用の変更は行わないものとする。ただし、監督員が打合せ回数の追加を指示した場合や業務の追加、変更に伴い打合せ回数の変更が生じる場合の取扱いには、監督員と受注者との協議の上決定するものとする。

また、ウェブ会議システム等を活用して打合せを実施する場合の交通費・日当・宿泊費についての取扱いは、監督員と受注者との協議の上決定するものとする。

第3章 補足事項

3-1 業務の変更及び追加が予想される内容

下記に示す事項については、現地状況等により変更または追加する場合があるため、受注者は監督員と緊密な連絡を取るとともに、これについて監督員の指示があった場合は速やかにその指示に従うものとする。また、これに要する費用については、監督員と受注者との協議の上決定するものとする。

- (1) 塗膜試料採取及び塗膜分析試験の数量の変更及び追加
- (2) 塗膜試料の処分費の追加
- (3) 塗膜試料の含有量及び溶出試験の追加

3-2 遠隔立会

遠隔立会とは、遠隔立会実施要領（令和5年10月 東日本高速道路株式会社）に基づき、共通仕様書1-2-3「検査及び立会い」に定める検査及び立会いについて、デジタル通信技術を活用し遠隔地からの確認、検査及び立会いの実施により、受注者及び発注者の調査等管理業務の効率化による生産性向上を図るものである。

遠隔立会の実施有無、実施項目、費用等については、調査着手前に監督員と協議し定めるものとする。

調査対象橋梁 一覧表

道路名	I C間	橋梁名	橋長(m)	足場条件	備 考
秋田道	湯田 IC～横手 IC	力石橋	54.6	検査路	
秋田道	湯田 IC～横手 IC	岩瀬橋	149.5	検査路	
秋田道	湯田 IC～横手 IC	土渕橋	147.0	検査路	
秋田道	大曲 IC～協和 IC	中山橋（上り線）	41.1	検査路	
秋田道	大曲 IC～協和 IC	栩平川橋（上り線）	137.0	検査路	
秋田道	大曲 IC～協和 IC	淀川橋（上り線）	104.4	検査路	
秋田道	協和 IC～秋田南 IC	平尾鳥川橋（上り線）	183.5	検査路	
秋田道	協和 IC～秋田南 IC	平尾鳥川橋（下り線）	175.0	検査路	
東北中央道（湯沢横手道）	湯沢 IC～十文字 IC	白子川橋（上り線）	55.5	検査路	